

ICカード「ハチカ」データ可視化・分析システムの活用事例



八戸市・八戸圏地域公共交通活性化協議会

今回は、データ可視化・分析システムを導入経緯や活用事例を紹介いたします！

■システム導入の経緯

■現状の課題認識

- 慢性的なバスの乗務員不足・2024年問題
- 公共交通計画や利便増進計画策定に係る作業時間
- 交通やまちづくり施策による定量・定性的効果把握が困難

図1 現在路線を検討する際用いる資料

■目指したい将来

- 迅速かつ確にデータ処理を行い、数値的根拠を示し、誰が見ても共通の認識をもちながら先を見据えた議論・検討が可能となる体制を構築すること

■データ可視化・分析システムとは？ 何を可視化？

図2 各バス停、路線の乗車人数、支払種別を可視化！

- ①統計情報
→フィルターで選択した範囲での乗車人数、合計運賃、合計便数を表示
- ②乗車・降車人数グラフ
- ③支払金種
→ICSF・IC定期・高齢者特別乗車証等の支払金種別に割合を円グラフで表示
- ④運賃区界
- ⑤地図上に路線図表示
→バス停を選択するとバス停の時間帯ごとの平均乗車・降車人数を可視化



図2 乗車画面のダッシュボード

図3 系統ごとの乗降者人数、車内滞留人数をバス停、時間別日付別で可視化！

- ⑥バス停別利用状況
- ⑦便別(時間別)利用状況
- ⑧支払金種
- ⑨運賃区界
- ⑩区間別車内人員
- ⑪便別(日付別)利用状況



図3 系統ごと深堀分析のダッシュボード～

■活用事例

ある会合での地域住民からの提案 →自宅からバス停が遠い、もっと小回りの利くワンボックスで団地内を回れないか。

- 住民へは、当該地域を運行している路線毎の運行状況を説明。(当該地域は3路線あるが、今回は1路線分だけ掲載)
- この表で、全体的に当該地域のバス停で利用者が多いこと、路線全体としてどのような乗降客がいるかを説明。

- 先程の表では、1便あたりの利用状況が分かりづらいため、1便をピックアップし、当該地域のバス停だけで10人以上の利用があることを説明し、ハイエースでは対応が難しいことを説明。

